都道府県別賞一等

明るく見えるぼくの将来

静岡県　静岡市立大里中学校　一学年　戸塚　功大

ぼくの夢はプロサッカー選手だ。しかし、ケガをしたらサッカーをやめるかもしれない。そんな時、学校で生命保険についての作文コンクールのパンフレットをもらった。そして、自分の人生を考え、保険の大切さを知った。有名なサッカー選手でケガでやめる人は数多くいる。まったく保険に興味なかったぼくは、生活が保険に助けられるのを初めて知った。ぼくは、保険があるからサッカーを精一杯楽しめていると分かり、保険に感心した。まるで人生を共に歩んでいるパートナーのようだ。

家に帰って、お母さんに生命保険についてインタビューした。

「生命保険ってどんな役割があるの？」

とぼくが聞いた。そうするとお母さんが、

「私たちの生活を支えてくれてるんだよ。」

と教えてくれた。ぼくは、サッカーだけじゃなく生活も支えてくれている生命保険はすごいと思った。

それからは自分でも生命保険を調べるようになった。たくさんの情報の中で、ある言葉に目を光らせた。それは、「リスクに備える」という言葉だ。ぼくはすごくびっくりした。これは、ぼくに言っているような文章だった。しかし、保険はものすごくお金がかかると知った。そして、生命保険に入れているというありがたさがこみあげた。たくさんの情報を得て、身近に保険を感じられるようになった。

夏休みに入って、サッカー合宿があった。ぼくは、たくさんの試合をこなしていく中でいつもより思いきってプレーできているなと思ったし、活躍することができた。ぼくは寝る前に「なんでだろう？」と不思議に思った。

そして次の日、あることに気づくことができた。それは、自分のチームメイトで入団まもなくケガをして、今もリハビリをがんばりながらチームメイトのサポートをしてくれているA君のことだ。A君は試合に出られないのにぼくたちのサポートを率先してやってくれているのでぼくはA君に感謝している。そして、ぼくはA君に聞いてみた。

「保険は役に立ってる？」

するとA君は答えた。

「ケガをしたら治療にお金をはらうことになるけど、保険のおかげでお金がかからず、復帰に向けてがんばれていると思う。」

と教えてくれた。ぼくはふと思った。大ケガをしたら、選手生命が終わってしまうことがあるかもしれないが大部分の人が周りの家族やコーチ、チームメイト、スタッフの支えや保険があるおかげで将来の夢をあきらめずに継続することができているということに気づくことができた。

「ぼくには『夢』がある。」

これからのサッカー人生で思いもよらないケガをすることがあり、夢をあきらめそうになる時があるかもしれないけれど、家族の支え、保険などに守られていることを忘れず、夢をあきらめることなく、全力でプレーしていこうと思う。保険の勉強をして、ぼくの味方が一つ増えたような気がした。

保険のことを学んで思ったことは、保険は、たくさんの人生を前向きに過ごせるようにサポートしているのだと感じた。安心していろいろなことに取り組めるのは、素晴らしいことだと思う。だからもう一度自分に問いかけた。

「本当に自分が将来やりたいことは何なのか。」改めて思った。

「海外クラブのサッカー選手になって、応援してくれる人を幸せにすることなんだ。」と。

今までぼやけていた海外サッカークラブのスタジアムがはっきりと見えた。